

鯖江市の
人と生きもののふるさとづくり
マスタープランの挑戦
～鳥獣害対策で地域政策を拓く～

鯖江市鳥獣害のない里づくり推進センター
所長 中田 都



本気になる

あきらめる

長続きの秘訣は

リーダーの存在
合意形成
多様な人の参加



地域政策として 対策をすすめるためのポイント

- 1 組織合意
- 2 順応的に管理すること
- 3 負担を分散すること



中田 都

今年度はクマの大量出没の対応で
年末年始もてんやわんやしていました



7



伴走型担当職員の理想像

- 1 動物種を見分けられる
- 2 動物の痕跡（被害、足跡、糞）を見分けられる
- 3 法律的根拠を理解している
- 4 被害防除（電気・ネット）柵を取り扱える
設置指導ができる、突破箇所の判別ができる
- 5 サルのテレメトリー調査ができる
- 6 住民の合意形成の場づくり

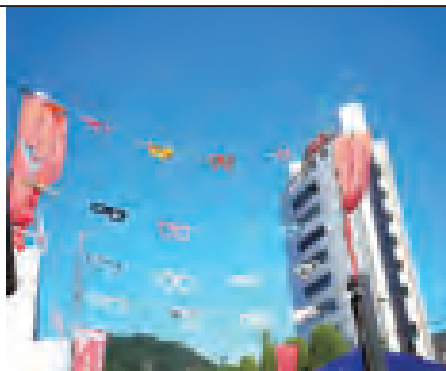


中田 都

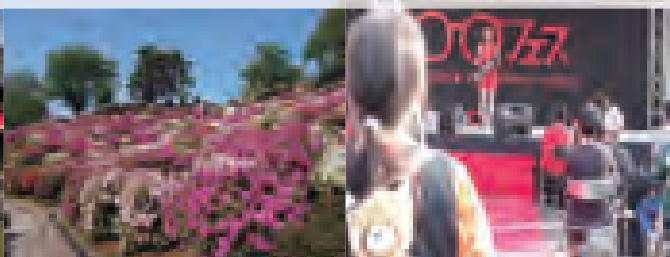
福井県鯖江市役所
鳥獣害のない里づくり推進センター所長
農林水産省野生鳥獣被害対策アドバイザー
鯖江市鳥獣被害対策実施隊/捕獲隊



8



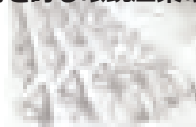
ものづくりのまち



世界に誇れる技術力 「ものづくりのまち」

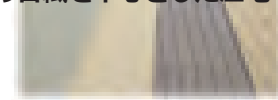
眼鏡産業

「眼鏡フレーム」の国内製造シェア
約9割を誇る眼鏡産業の産地



繊維産業

ナイロン、ポリエステル等
の合繊を中心とした産地



漆器産業

約1500年の歴史と伝統
を有する越前漆器の産地



つくる
さばえ

SABAE, THE CREATIVE CITY

イノシシ陣地

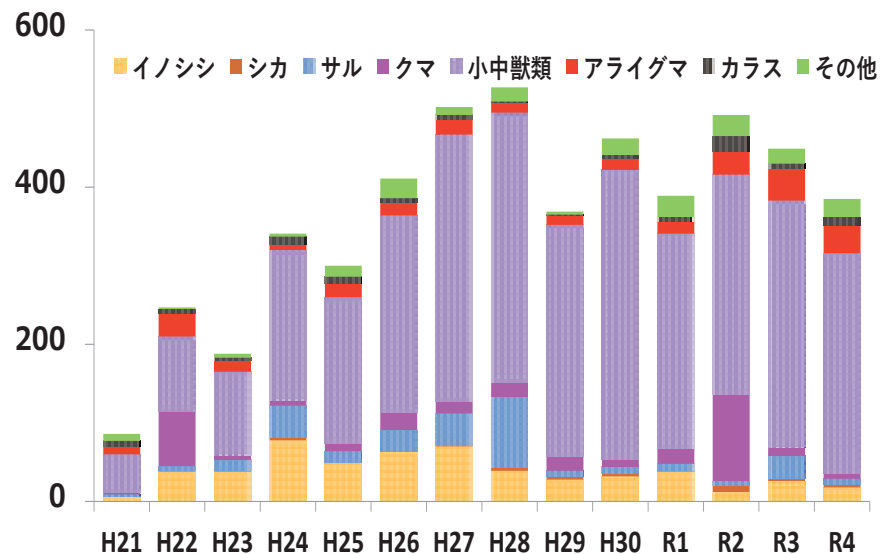
人間陣地

緩衝帯

電気柵

ネット柵

市民からの相談・通報件数の推移（獣種別）
平成21年4月1日から令和5年3月31日まで



今日のお話し

- 1 鯖江市のマスタープランについて
- 2 具体的な取り組みとその効果
- 3 現状の課題とこれから

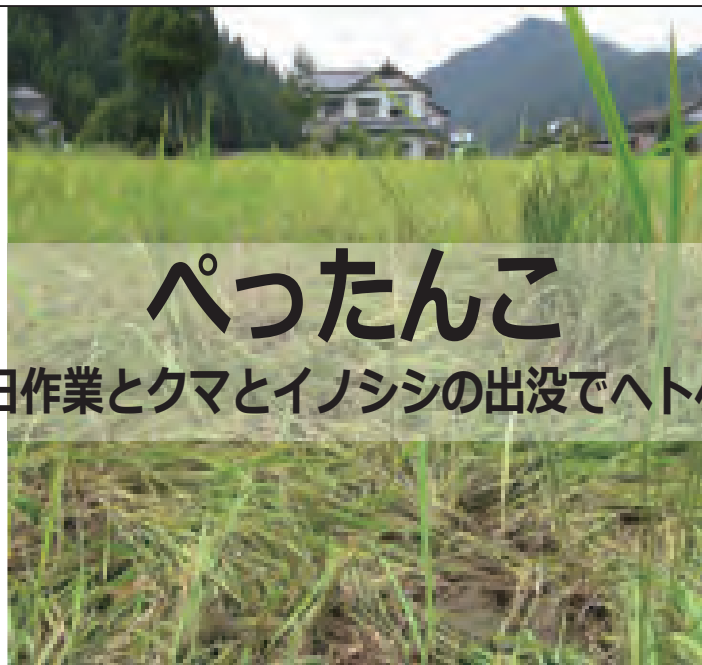
人と生きもののふるさとづくり
マスタープランについて
策定のきっかけ



2004（平成16）年 福井豪雨災害発生



復旧作業とクマとイノシシの出没

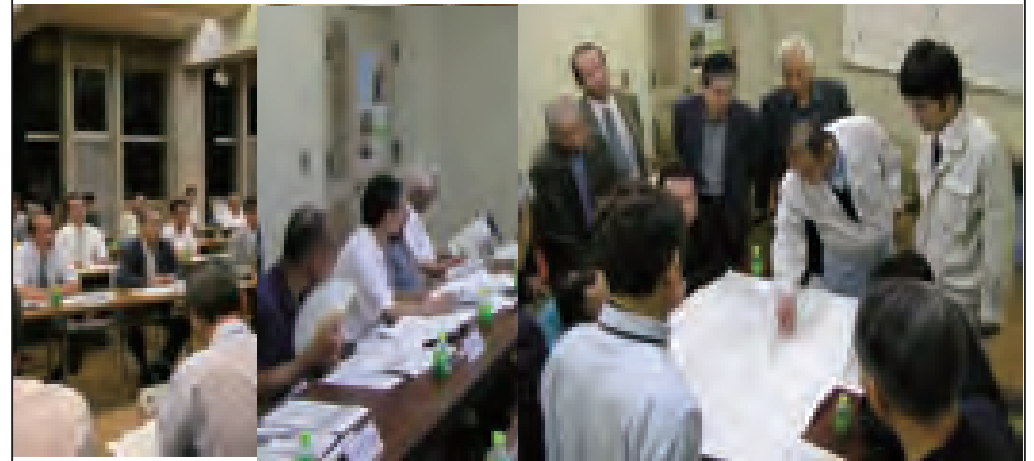


ぺったんこ

復旧作業とクマとイノシシの出没でヘトヘト

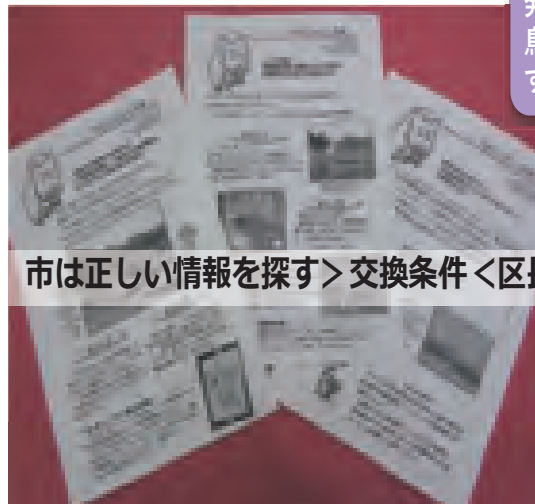
2005（平成17）年8月31日 鯖江市東清水町

2005（平成17）年 市長と語る会で河和田地区区長会からの要望



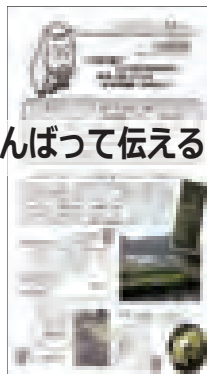
区長会の勉強会

2005（平成17）年 いのし新聞誕生



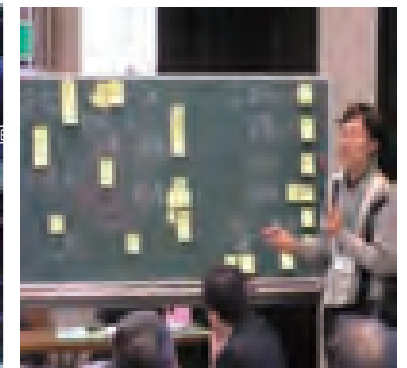
発行目的：
鳥獣害対策を地域住民みんなが実践
するために正しい情報を伝える

市は正しい情報を探す＞交換条件＜区長はがんばって伝える



2006（平成18）年3月 鳥獣害対策リーダー育成研修会

- ・イノシシの生態・柵の効果的な設置
- ・人(里)と獣(山)の住み分けの重要性
- ・必要なのは話し合い



研修会と情報共有は非常に効果があった

【良かったこと】

- ・ 集落ぐるみの鳥獣害対策は浸透した
- ・ 集落リーダーは育った

【課題】

- ・ イノシシの生息域が広がり、地域ニーズが高まるが、職員多忙で、丁寧に付き合えない
- ・ 次々初心者が増えて研修のレベルが定まらない

多様化する 市民ニーズ

多様化する 市民ニーズ

集落を超える
リーダー育成
取り組みの明文化
目標に向かって計画的に

そのころ鯖江市では

「鯖江市民憲章」
1990（平成2）年

「鯖江市市民活動による
まちづくり推進条例」
2003（平成15）年

市民ニーズは多様化、
複雑化
行政だけで全ての
公共サービスを
担うことは困難な時代

